



令和6年5月28日（火）、北三沢地区にて三沢市立おおぞら小学校の4～6年生52名を対象にした田植え体験学習が行われました。

北三沢地区は三沢市北部に広がるラムサール条約登録湿地「仏沼」の西に隣接し、湿地で繁殖するオオセッカ等の野鳥に配慮しながら、平成22年度から27年度にかけて、ほぼ休耕地だった約100haの水田を大区画ほ場に整備した地区です。



【田植えの仕方を教わる児童】



【水田にはだして入る児童】

おおぞら小学校では、同地区の担い手である農事組合法人「フラップめぐり北三沢」やJAおいらせ青年部、北三沢土地改良区の協力により、平成29年度から本地区で農作業体験を実施しています。

この数年の田植えは雨が続いていましたが、今年は久しぶりに雨の降っていない天候での田植えとなりました。参加した児童たちは「苗は3本、心は1つ」のスローガンの下に、苗の束を丁寧に取り分けながら水田に植えていきました。



【田植えの様子】

初めて田植えを体験した4年生は泥の感触におっかなびっくりの様子でしたが、手持ちの苗の束がなくなると「おかわりください!」と笑顔で追加の苗を大人の人たちに求めていました。そして苗の束を投げて渡されると泥がシャツやズボンに飛ぶという「恒例行事」に悲鳴を上げていました。中には田植えに夢中で足が泥から抜けなくなりバランスを崩し、田んぼの中で尻もちをついてしまう児童もいましたが、それすらも楽しそうに笑い飛ばしていました。



【服を泥まみれにしてしまった児童】



【田植え後の水田】

秋には児童たちが自分たちで田植えしたお米をみんなで収穫作業を行う予定となっています。活動を通して、児童の皆さんには土に親しんで働くことの苦労や食べ物の大切さを学んでもらえたら何よりです。



【田植え学習のお礼】



【集合写真（6年生）】

関連事業：中山間地域ふるさと活性化事業（通称：ふる水基金、棚田基金）

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noson/hurumizutanada.html>